令和６年度　別府市社会福祉協議会　事業報告

事業報告（総括）

令和６年度は、５年間にわたる活動の指針として策定した「第３次別府市地域福祉活動計画アクションプラン」の２年目として、地域の生活課題が複雑化、複合化する中で、誰もが取り残されることのないような支え合える地域づくり、拠点づくりや関係機関等との連携や協力のもと、地域ぐるみでの福祉活動を推進しました。

生活困窮や社会的孤立などの様々な複合化した課題に迅速に対応支援するために、総合相談支援機能、生活福祉資金貸付機能、生活支援機能などを集約し、一体的に対応できる自立相談支援センターの機能強化を行いました。

あわせて身近な生活圏内での相談支援強化につなげるため、毎週定期的な「まちのなんでも相談室」をあすなろ館、おひさまパークで新たに開設し、薬店や事業所などが参加するかけ橋パートナー店の拡充や、さらにスマートフォンでも相談対応できる仕組みも作成しました。

認知症対策では、認知症初期の段階から地域において当事者や家族を支援するためのチームオレンジの仕組みづくりや地域で支え合い活動を推進する事業を別府市から新たに受託し、認知症になっても地域で安心して生活できる環境づくりにも取り組みました。

令和元年から取り組んでいます成年後見支援事業では、相談、法人後見、安心サポートそしてべっぷ終活あんしんサポートのニーズが増加し、支援の必要な方を適切な支援につなげるコーディネート機能を強化しました。そのような中で、別府市でも市民後見人が誕生しました。

災害支援対応については、能登半島地震被災地支援では、珠洲市災害ボランティアセンターへ職員を派遣し、さらに台風 10 号で浸水被害を受けた被災世帯に対し、別府市と情報共有し、本会では初めて災害ボランティアネットワークやボランティアを活用しての災害ごみの搬出、家屋内の畳上げ、床下等の泥出しや洗浄等活動支援を行いました。

事業をさらに推進するために、専門的な立場で政策立案の段階から助言や提言をしてもらうアドバイザーの導入を行い、職員とともに「みんなの居場所×ぷらっとすぺーす」構想作成や「DX推進計画」の策定、災害ボランティアの研修・訓練・講座等の体系づくりなどに取り組みました。

以下、令和６年度の事業実施状況については、次のとおりです。

Ⅰ．法人運営関係

1. 福祉活動の指針となるアクションプランの進捗

本会と別府市が協働で作成した第２期別府市地域福祉計画及び第３次別府市地域福祉活動計画の実践２年目にあたり、これまでの検証を行う中で、この計画の実行性を高めるために本会事業と連動したアクションプランに基づき、それぞれの事業を具体的に進めました。

2. 理事会・評議員会・その他委員会機能の活性化

理事会・評議員会での議案等の資料については、簡素化と明確化を心がけ作成しました。また、理事会・評議員会での議論が活発に行われるよう、現在の問題点や検討事項を報告するなど、運営の向上に努めました。

(1) 理事会の開催

① 令和６年度第１回理事会

開催日　令和６年５月31日(金)13時00分
開催場所　別府市社会福祉会館
出席者　理事　11名　　監事　２名
審議事項　・令和５年度事業報告及び決算について
・令和６年度収支補正予算(第１回)について
・評議員選任・解任委員会の委員の選任について
・評議員候補者の推薦について
（評議員候補者の推薦、評議員選任・解任委員会の招集）
・令和６年度第１回評議員会の招集について

② 令和６年度第２回理事会

開催日　令和７年３月７日(金)13時15分
開催場所　別府市社会福祉会館
出席者　理事　11名　　監事　２名
審議事項　・令和６年度収支補正予算(第２回)について
・令和７年度事業計画及び収支予算について
・諸規程等の全部及び一部改正について
・令和６年度第２回評議員会の招集について
・職務執行状況の報告について
報告事項　・多世代交流地域拠点事業について(みんなの居場所)
・デジタル化による事務改善(ＤＸ推進計画)

（2） 評議員会の開催

① 令和６年度第１回評議員会

開催日　令和６年６月26日（水） 10時30分

開催場所　別府市社会福祉会館

出席者　評議員 14名　　監事 １名

審議事項　・令和５年度事業報告及び決算について

・令和６年度収支補正予算（第１回）について

報告事項　・評議員選任・解任委員会の委員の選任について

・評議員候補者の推薦について

② 令和６年度第２回評議員会

開催日　令和７年３月24日（月） 13時30分

開催場所　別府市社会福祉会館

出席者　評議員14名　監事出席 １名

審議事項　・令和６年度収支補正予算（第２回）について

・令和７年度事業計画及び収支予算について

・役員の報酬等に関する規程の一部改正について

報告事項　・諸規程等の全部及び一部改正について

・職務執行状況の報告について

・多世代交流地域拠点事業について（みんなの居場所）

・デジタル化による事務改善（ＤＸ推進計画）

（3） 評議員選任・解任委員会の開催

① 令和６年度第１回評議員選任・解任委員会

開催日　令和６年６月10日（月） 10時00分

開催場所　社会福祉協議会会議室

出席者　委員３名

審議事項　・評議員候補者の選任について

（4） 監事の監査

① 決算監査

令和６年５月10日（金） 10時00分

場所　別府市社会福祉会館

内容　事業状況及び収支決算状況

結果　特に指摘事項なし

3. 情報・発信力の強化【重点】

情報をいかに必要な人に届けられるかを念頭におきながら、SNSを活用し、「社協だより」の発行時期に合わせてLINEから配信を行い、今まで「社協だより」を見る機会がなかった市民に向けた情報提供に努めました。

（アクション7：きめ細やかな情報提供を行います）

4. 会員制度の充実及び入会の促進

友愛訪問事業及びレクリエーション備品の貸し出し、訪問型有償ボランティアの利用条件等、会員加入のメリットを伝えながら入会の促進に努めるなど、会員の拡充強化を図り、本会の地域福祉活動への幅広い理解と協力を得て、会費全体で115 口（23.7%）、86，000円（16．5%）の増額となりました。

① 一般会費 … 144 口　72,000 円　（前年度 102 口　51,000 円）
　※個人一口 500 円
② 特別会費 … 436 口 436,000 円　（前年度 361 口 361,000 円）
　※本会役員、自治委員、民生児童委員、地区社協、福祉関係団体などの
　個人・団体会員一口 1,000 円
③ 法人会費 …　20 口　100,000 円　（前年度 22 口 110,000 円）
　※福祉施設、会社、事業所等の団体会員一口 5,000 円
■会費収入総計 600 口 608,000 円　（前年度 485 口 522,000 円）

5. 寄付金収入の拡充

寄付金などの自主財源確保のための取組として、ホームページやSNS等で情報を随時更新し、さらに本会の活動状況を広報誌などで積極的に周知・啓発を行うことで、社協が取り組む地域活動等への幅広い理解と協力に努めました。

令和６年度は、香典返し・一般寄付等の寄付金合計は、2，508，419円（36．9%）の増額となりました。特定目的寄付を除いても 1,026,519円（15.2%）の増額となっています。

種別	令和6年度		令和5年度	
	件数	金額（円）	件数	金額（円）
香典返し	154	5,121,000	125	3,850,000
一般寄付	92	2,126,470	95	1,934,831
特定目的寄付	4	1,529,000	4	47,100
物品寄付	3	535,900	5	972,020
合計	253	9,312,370	229	6,803,951

（物品寄付内容）
・車いす　1件（ 5 台）385,500 円
・チャイルドシート 1件（ 2 台） 50,000 円
・折りたたみイス　1件（10 脚）100,400 円

6．人材確保と人財育成【重点】

(1) 人材確保

新規事業や事業拡充に伴い、専門的な人材確保のために、例年の秋募集から夏募集に募集時期を変更し、4 年続けての職員採用試験を実施しました。

令和 6 年度は、経験職及び大学新卒それぞれ 2 名の 4 名（社会福祉士の有資格者）の採用を決定し、そのうち 1 名を令和 6 年 10 月から、3 名を令和7年4月からそれぞれ採用配置しました。

(2) 人財育成

職員のスキルアップのために、積極的に研修参加を進めるとともに、地域への出前講座、担当部署を超えて職員が毎週 2 か所で様々な困りごとの相談を受ける「まちのなんでも相談室」の開催や、事業推進のために毎月 1 回CTBひるまえとんぼテレビに生出演し、市民への情報提供などを行いました。

（アクション7：きめ細やかな情報提供を行います）

① 階層別研修（福祉職員キャリアパス対応生涯研修導入）

・新任職員研修　4名
・幹部候補研修　2名

② 専門研修

・社会福祉主事資格認定通信課程 1 名
・認定社会福祉士取得に向けた認定研修受講　1名
・生活困窮者自立支援制度相談支援員初任者研修 3 名
・生活困窮者自立支援制度主任相談支援員初任者研修 1 名
・生活困窮者自立新制度就労支援員・就労準備支援事業支援員初任者研修 2 名
・生活困窮者自立支援制度家計改善支援事業支援員初任者研修 1 名
・生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修 3 名
・生活困窮者自立支援制度担当職員研修 5 回・1 名
・ひきこもり相談窓口等従事者研修 2 回・3 名
・居住サポート住宅を考える研修会 1 回・2 名
・就労継続支援事業の理解を深める研修会 3 名
・権利擁護専門人材育成研修（新任職員）2 名
・権利擁護専門人材育成研修 4 回・2 名
・後見制度利用促進体制整備研修（基礎研修）4 回・2 名
・後見制度利用促進体制整備研修（応用研修）4 回・1 名
・後見制度・Kねっと全国セミナー1 名
・親なきあと相談研修会 2 回・3 名　・居住支援エリア別セミナー1 名
・日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会 2 回・1 名

・認知症地域支援推進員研修２名　・認知症疾患医療センター研修２名
・認知症地域支援推進員現任者研修２名　・チームオレンジ研修２名
・全国福祉教育推進研修１名
・災害ボランティアセンター運営スタッフ研修２名
・災害ボランティアセンター運営リーダー研修４名
・在宅医療・介護連携推進事業における多職種研修会１名
・大分県認定調査員現任研修２名
・別府市介護支援専門員研修.介護予防等２名
・指定居宅支援事業所集団指導２名

③　一般研修（全職員対象）
救命講習（6 月）、人権学習（9 月）、交通安全講習（11 月）

7.事務の効率化及びデジタル化による業務改善【重点】

デジタルを活用して事務の効率化や市民サービスの向上を目的としたDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進について、職員によるプロジェクトチームを編成し、さらに外部より専門的な立場からのアドバイザーに入っていただき、別府市社会福祉協議会「DX推進計画」を策定しました。

また、これまで手作業で行っていた労働時間の集計や給与計算等について、4 月から勤怠管理システムを導入し、事務の効率化を図りました。

※デジタル化会議　全６回（6/28、7/23，8/27，10/24、11/22，1/10）

8. 社会福祉事業功労者表彰式の実施

社会福祉関係者をはじめ、長年、社会福祉の増進に貢献された方々を顕彰するため、第43 回別府市社会福祉大会「社会福祉事業功労者表彰式」を開催しました。

また、今まで以上に本市の福祉増進をより推奨・推進するために、表彰の範囲の拡大や資格基準等の見直しを行い、多くの多様な貢献者に対して顕彰する「表彰規程」を全面改正しました。

① 開催日時　令和６年 10 月 29 日（火）10 時～12 時
② 開催場所　別府市社会福祉会館「大広間」
③ 被表彰者　社協会長表彰（30 名・2 団体）感謝状（3 名・9 団体）
共同募金会長表彰（8 団体）感謝状（2 団体）
④ 記念講演　徳田法律事務所弁護士　徳田　靖之　氏
「障がいのある人もない人も、安心して暮らせる地域づくりを目指して」

9. 別府市社会福祉会館事業（市指定管理）

令和 6 年度の利用者数は、23,295 人で、昨年度より6，616人が増加し、コロナ禍以

前の利用者数まで回復しました。

主な理由としては、市有施設改修に伴い市役所各部署の利用等が増加したことによるものです。

なお、市役所各課の利用増に伴い減免対象の利用者数は、14,810 名と昨年度より6,028 名(68.6%)増となりました。

また、自主事業として、「別府市社会福祉会館 30 周年記念まつり」や「なつやすみドローンであそぼ！」を開催しました。

【利用者数】 （単位：人）

項目	大広間	小会議室	作法室	合計	免除
R6 年度	19,294	1,929	2,072	23,295	14,810
R5 年度	13,574	1,846	1,259	16,679	8,782

【自主事業】

(1)「別府市社会福祉会館 30 周年記念まつり」

・日時：令和 7 年 1 月 25 日(土) 10:00～

・場所：別府市社会福祉会館

・参加人数：192 名

・内容：呈茶、お点前、塗り絵コンクール、介護用品展示、竹馬体験

・記念ステージ：落語家ザトーのザトーク、フルート＆ギター デュオコンサート

(2)夏イベント「なつやすみ ドローンであそぼ！」

・日時：令和 6 年 8 月 3 日(土) 13:00～

・場所：別府市社会福祉会館

・参加人数：13 名

・内容：ドローン競争、ドローン的あて

10. 別府市北部コミュニティーセンター事業

令和6年度の利用者数は、貸館が 5,854 人・トレーニング室等の利用が4，857人となっており、貸館が491人(7．7%)減少し、トレーニング室等の利用に関しては、212人(4．7%)の増加となりました。

貸館が減少した理由としては、今まで貸館を利用していた団体の減少が考えられます。また、トレーニング室等利用の増加では、市民の健康意識が上がっていることと回数券の利用が浸透してきたことも要因として考えられます。

また、自主事業は、別府市北部コミュニティーセンター「あすなろ館」開館 20 周年を記念した「あすなろ館まつり」を開催しました。

【利用者数】 （単位：人）

項目	ホール	第一会議室	サークル室	娯楽室	第二会議室	相談室	室計	健康器具	卓球	囲碁・将棋	器具計	合計
R6年度	2,704	817	2,001	49	90	193	5,854	4,048	808	1	4,857	10,711
R5年度	4,038	629	1,447	21	85	125	6,345	3,845	800	0	4,645	10,990

【自主事業】

(1)「開館 20 周年あすなろ館まつり」

・日時：令和 6 年 5 月 26 日（日） 10:00～

・場所：別府市北部コミュニティーセンター

・参加人数：127 名

・内容：バルーンアート、昔ながらのおもちゃづくり、市制 100 周年記念パネル展

Ⅱ． 市民活動事業

1． ボランティアセンター事業

令和 6 年度は相談件数が24件で、昨年より 10 件（71.4％）増え、市民のボランティア意識が高まってきている状況です。

また、コロナ禍で低下していたボランティア活動が徐々に活発化してきており、学生の参加や地域のサロン等の活動が再開してきたことで、地域活動が少しずつ戻りつつあります。

反面、受け入れ側の福祉施設が感染症対策のため、受入可能にならない状況にありますが、継続して、新たな人材の発掘及び既存の活動者への人材育成や広報を充実するために、来年度から創刊するボランティア情報誌の検討に取り組みました。

（アクション4：思いやる心を育む環境をつくります）

【相談内容】

〇ボランティアをしたい … 11 件

〇ボランティアを頼みたい … 10 件

〇その他 … 3 件 計 24 件

(1) ボランティア活動支援

ボランティア活動の希望者へ活動先の紹介を行うとともに、活動を依頼する施設や地域との活動調整に取組みました。

【ボランティア活動者数】

年度	団体	団体所属人数	個人	合計人数
令和 6 年度	44 団体	1,705 人	31 人	1,736 人
令和 5 年度	40 団体	1,708 人	27 人	1,812 人

（2） ボランティア連絡協議会との連携、援助

毎年実施している母子寮への物品寄贈、共同募金への参加協力、別府駅前の清掃活動を実施するとともに、別杵東速ブロック研修や、大分県ボランティア・NPO推進大会などの市外ボランティア団体との交流を図りました。

また、集まらなくてもできるボランティアとして始めた「フードボランティア」（食材寄贈）も継続的に行っています。

一方で、登録者の減少や高齢化が続いているため会員増加のための新たな取組が課題です。　（団体登録 6 団体、個人登録 10 人）

（3） ボランティア協力校への育成援助

市内の小・中・高・支援学校・大学の児童・生徒・学生を対象として、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア活動・社会連帯の精神を養うとともに児童・生徒を通じて家庭及び地域社会の福祉活動の啓発を図ることを目的に、引き続き市内の学校へ協力校募集の案内を行いました。今後も連携強化を図りながら、さらなる地域貢献活動を推進します。

【ボランティア指定校】　4 校

継続	県立南石垣支援学校、別府溝部学園高等学校、別府大学
新規	県立別府翔青高等学校

（4） 夏のボランティア体験事業の実施

令和 6 年度は前年度から 12 名増え、48 名（33.3％増）の参加者があり、19 施設が受入施設となりました。また、感染症対策が継続されており施設数の伸び悩みが課題です。

【参加者及び受け入れ施設状況】

区　　分	R6 年度	R5 年度
参加者数 （人）	48	36
受け入れ施設数 （施設）	19	18

2.　介護支援ボランティア事業 （別府市受託事業）

本事業は 65 歳以上の方に、介護予防や社会貢献活動を目的にボランティア活動をしていただく事業ですが、令和 6 年度は、別府市と協議し、介護支援ボランティアの対象にはならない 65 歳未満の参加も可能とし、参加者の拡充を図りました。早めの周知とボランティアの楽しさを知ることを目的として介護支援ボランティアの充実に努めました。

福祉施設の受入れが感染症対策により伸び悩んでおり、ボランティアの活動場所が減少する状況ではありますが、引き続き、新規登録者の獲得に努めます。

（アクション4：思いやる心を育む環境をつくります）

（1） 登録者数

区　分	R6 年度	R5 年度
登録人数（人）	25	46
受入期間（日）	84	84

（2） 活動実績

区　分	R6 年度	R5 年度
活動回数（回）	483	594
活動人数（人）	102	121

（3） 活動内容　　（単位：回）

活動内容	R6 年度	R5 年度
レクリエーション等の参加支援又は補助	251	310
お茶出し、食堂内の配膳、下膳等の補助	271	330
散歩、外出、施設内移動等補助	0	0
話し相手	16	51
行事の手伝い（模擬店、会場設営、芸能披露等）	0	0
その他（生け花、入浴後のドライヤー等）	20	7
合　計	558	698

（4） 別府市介護支援ボランティア研修会・説明会

ボランティア初心者や、すでに活動している人のスキルアップ及び新規の介護支援ボランティアの登録者の増員、また、受け皿となる福祉施設との連携強化のために開催しました。

・開催日時　令和７年３月 17 日（月）14：00～　別府市社会福祉会館
・参 加 者　21 名（施設職員１名）
・内　　容 【研修会】「Let’s レクリエーション」
大分県レクリエーション協会　レクリエーションコーディネーター　仲　純子氏

3.　災害ネットワーク事業【重点】

令和６年９月に発生した台風 10 号により、別府市内で被害が発生した際には、本会に寄せられた被害情報と行政に寄せられた被害情報を共有し、被害状況の把握に努めました。NPO法人、災害ボランティアネットワーク、災害ボランティアに協力を募り、災害支援を実施しました。なお、発災時を想定した災害ボランティアセンターの実地訓練（立ち上げ訓練）、市防災危機管理課と災害ボランティアセンター設置についての協定書の見直し等の課題の協議を行いました。　（アクション8：地域での見守り・支援体制の充実・強化）
（アクション9：災害に備えた円滑な支援活動の推進）

（1）災害ボランティアネットワーク研修

・日時：令和６年９月５日（木）　・場所：別府市社会福祉会館
・対象者：災害ボランティアネットワーク団体・災害ボランティア
・人数：43 名
・内容：台風 10 号災害支援報告、講話、応急手当体験
・講師：日本文理大学-工学部建築学科-助教授　髙見　大介　氏
日本赤十字社「応急手当の実践」　沖本　佳代　氏

(2)災害ボランティア養成講座Ⅰ

・日時：令和７年１月 23 日(木)　　・場所：別府市社会福祉会館
・対象者：災害ボランティアネットワーク団体・災害ボランティア
・人数：41 名
・内容：災害ボランティアセンターについて、防災カードゲーム「なまずの学校」
・講師：日本文理大学-工学部建築学科-助教授　髙見　大介　氏
　　別府市社会福祉協議会職員

(3)災害ボランティア養成講座Ⅱ

・日時：令和７年３月 14 日(金)　　・場所：別府市社会福祉会館
・対象者：災害ボランティア養成講座Ⅰ受講者
・人数：31 名
・内容：災害が起きる前と後にできることについて
・講師：日本文理大学-工学部建築学科-助教授　髙見　大介　氏

(4)避難所運営訓練

・令和６年度　西地区モデル地区避難所運営訓練
・日時：令和７年２月 16 日(日)　　・場所：別府市立南小学校
・人数：5 名

(5)研修会

①　災害ボランティアセンター運営スタッフ研修会
・日時：令和６年６月 21 日　　・場所：大分県総合社会福祉会館
・職員参加人数：2 名

②　災害ボランティアセンター運営リーダー研修会
・日時：令和７年２月 25 日　　・場所：大分県総合社会福祉会館
・職員参加人数：4 名

4.　災害支援事業【重点】

＜災害支援＞

(1)令和６年能登半島地震における災害支援

・日時：①　７月５日(金)～７月 11 日(木)、②　７月 17 日(水)～７月 23 日(火)
・場所：石川県珠洲市災害ボランティアセンター
・内容：珠洲市災害ボランティアセンターの運営支援
　　(現地調査、ニーズ受付、マッチング、資機材準備等)
・職員派遣人数：2 名

（2）令和 6 年台風 10 号における災害支援

土砂等の影響による家屋への浸水被害が市内で発生したため、本会としてはボランティアセンターを立ち上げることなく、別府市と被害情報を共有し、初めて災害ネットワーク及びボランティアを活用して、支援活動を行いました。

・活動期間及び地区

9 月 2 日（月）～9 月 21 日（土） 別府市枝郷地区

9 月 13 日（金）～9月 21日（土） 別府市朝見地区

・ニーズ依頼家屋数 9 件（内ニーズ対応数 4 件）

・活動内容

床下、庭、側溝などの泥出し清掃、家屋内の畳上げ、床板はがし、家財道具の移動、災害ごみの搬出

・災害ボランティア活動人数　延べ 97 名

（3）災害支援用品の確保

浸水被害家屋の支援のために、泥水を吸引するバキュームポンプ、乾燥させるサーキュレーター、洗浄する高圧洗浄機等の資器材の不足が明らかになったので、財源を確保し計画的にそろえる取組みを行った。

（4）災害支援ネットワーク　におけるアドバイザーの導入

災害時に適切な行動をとることができるよう、平常時に実施する研修、訓練、講座等のリニューアル及びボランティア養成講座の基本教材の作成を目的として、アドバイザーに助言・提言をいただき、企画及び分析を行いました。

〇アドバイザーとの協議　全 13 回（7/1、7/8、7/22、8/19、9/24、11/1、11/25、1/9、1/21、2/3、2/18、3/10、3/21）

5.　共同募金事業【重点】

令和６年度は、別府大学などの実習受入校など新たな募金協力団体や街頭募金協力店舗を増やしたことで、街頭募金やドラえもん組立式募金、法人募金や職域募金等で前年度を上回る募金額となりました。一方で、町内戸別募金（一般募金）の減少を受け、全体の募金額は減額となりました。

（アクション4：思いやる心を育む環境をつくります）

（1）　赤い羽根共同募金

減少傾向にある募金活動の対策として、新たな常設募金箱設置やイベント会場での募金活動などに取り組みましたが、募金総額は 9,971,344円で、前年度に比べ563,720円減少しました。

また、令和6年度の大分県共同募金会からの配分額は 5,742,000 円で前年度と比べ 378,000 円の減額となりました。

一方で、一般団体（11 団体）への助成額は、6,900,500 円で、前年度と比べ780,500円の増額となりました。その要因は、地区社協をはじめ各団体でコロナ後の活動が再開したことや、新たに助成団体が増加したことによるものです。

県共同募金会からの配分金不足分 378,000 円と助成金増額分 780,500 円の合計 1,158,500 円は、法人運営事業費から補填しました。

（2） 歳末たすけあい募金

実績額は 1,946,009 円で前年度比 177,141 円の増額となりました。町内戸別募金は微増でしたが、新たな協力団体も増え、街頭募金や一般募金は増加しました。その他のうち学校募金においては、件数が増えましたが金額は減額となりました。

【一般助成団体】 （単位：円）

団　　体　　名	令和6年度	令和5年度
17地区社会福祉協議会	5,968,500	5,515,100
別府市ボランティア連絡会	50, 000	50, 000
別府市子ども育成会連絡合	127,000	127,000
別府市老人クラブ連合会	85, 000	85,000
別府市身体障害者福祉団体協議会	90,000	90, 000
別府市保護区保護司会	85, 000	85, 000
別府市更生保護女性会	50, 000	0
別府市民生委員児童委員協議会	180,000	0
別府市民間社会福祉施設連絡会	120, 000	120, 000
別府市遺族会連合会	20, 000	20, 000
別府市社会福祉協議会	0	27, 900
別府市民後見人の会（エール）	125, 000	－
合　計	6,900,500	6, 120, 000

【歳末募金助成団体】 （単位：円）

団　　体　　名	令和 6 年度	令和 5 年度
福祉施設・団体（19）	727,000	715,000
地区社会福祉協議会（5）	250,000	263,000
子ども食堂等（5）	100,000	80,000
社協（福祉まつり）	1,014,000	1, 000, 000
ボランティアグループ（2）	100,000	94,000
NPO 法人（5）	239,000	143,000
助成合計（37）	2,430,000	2,295,000
剰余金（次年度繰越金）	390,738	874,729
歳末募金配分合計	2,820,738	3,169,729

【募金実績】 （単位：円）

区分	令和６年度			令和５年度		
	一般	歳末	合計	一般	歳末	合計
町内戸別	8,118,999	982,896	9,101,895	8,686,842	977,325	9,664,167
街頭募金	464,888	685,414	1,150,302	458,404	550,108	1,008,512
組立式募金箱	1,019,955	－	1,019,955	1,005,235	－	1,005,235
一般募金	30,538	3,369	33,907	80,386	200,000	280,386
その他	336,964	274,330	611,305	304,197	41,435	345,632
募金合計①	9,971,344	1,946,009	11,917,364	10,535,064	1,768,868	12,303,932
前年度剰余金計②	11	874,729	874,729	0	1,400,861	1,400,861
合計①＋②	9,971,355	2,820,738	12,792,093	10,535,064	3,169,729	13,704,793

Ⅲ．地域福祉事業

1．小地域福祉活動事業【重点】（地区社協との連携・活動の協力支援）

地区社協5地区でモデル地区ワークショップを開催し、能登半島地震や、台風10号被害などを受け、災害が長期化した時の地域住民の困りごとをテーマに、地域住民のマンパワーの重要性を理解していただきました。

ワークショップ後には、防災に関する視察研修や自治会単独防災訓練を行うなど、地区ごとに防災に関わる福祉協力員研修が活発に行われました。

また、令和６年６月に竹田市社会福祉協議会に視察研修を行い、平成28年から続く寄合の場「よっちはなそうえ」での取組や、城原地区社協役員と意見交換を行ったことで、地域での相談体制の見直しやサロン立ち上げ相談が活性化し、新たな地域サロンの開始へつながった地区が２か所ありました。

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）
（アクション5：地域福祉に携わる団体・関係機関との連携を図ります）
（アクション11：誰もがいきいきと暮らせる環境を整備します）

（1） 地区社協連絡協議会（開催場所：社会福祉会館）
令和６年6月19日、９月2日、10月18日、令和７年3月18日の年４回開催

（2） 地区社協役員会（開催場所：社協会議室）
令和６年5月17日、7月26日、9月30日、令和7年2月25日の年４回開催

（3） 地区社協事業

開催日	場 所	内　　容
令和６年６月15日 ～8月26日	市内各所	第74回「社会を明るくする運動」強化月間参加
令和６年６月28日	竹田市	地区社協・福祉協力員視察研修
令和６年11月14日	福祉会館	組立式募金箱開封式（開封作業協力）参加
令和６年11月17日	別府公園	2024別府市福祉まつり参加
令和６年12月１日 ～12月７日	市内各所	歳末たすけあい募金愛のなべ街頭募金参加
年　間	市内各所	いきいきサロン　７地区

2. 福祉協力員活動への協力・支援等

令和 6 年度の取組として「災害が長期化した時の被災者の困りごと」についてのワークショップを行うなど、災害をテーマとした研修を実施したことで、日頃の活動や心構えなど、住民が相談しやすい地域環境へつなげる取組について学びました。

また、社協主催の講演会などにも参加し、「新しいカタチの地域づくり」（6 月参加）、「認知症になっても安心して住み続けられる地域のために」（10 月参加）、「災害時における福祉協力員の役割について」（3 月開催）の 3 つの福祉協力員研修に参加し地域づくり等について理解を深めました。

3. 生活支援体制整備事業 （別府市受託事業）

令和 6 年度は、昨年度より活動実績が 39 件増え（43.8％増）ました。これは、「まちのなんでも相談室」によるものが大きく、生活支援コーディネーターが地域の拠点に出向き、身近な場所で相談を受けることができる仕組みを有効に活用できるものとなりました。また、定期的に行っている協議体及び行事・イベントの支援協力や、ひとまもり・まちまもり協議会への支援協力を継続的に実施しました。

なお、7 圏域ごとの取組の中で、地域の企業や商店、各種団体との連携強化が進展した圏域もありましたが、進捗状況が異なるため、体制整備の進みにくい地域への支援強化が課題です。

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）
（アクション５：地域福祉に携わる団体・関係機関との連携を図ります）
（アクション 10：地域における交流・拠点の場づくりを進めます

【活動実績】　　（単位：回）

活動内容	令和6年度	令和５年度
高齢者の生活に係る地域資源の把握	13	15
高齢者の生活に係る地域ニーズの把握	25	6
地域に不足する支援の創出	2	1
支援の担い手の養成	3	5
高齢者が担い手として活動する場の確保	4	0
関係者間の情報共有およびネットワーク構築	19	22
地域ニーズと生活支援サービスのマッチング	2	0
協議体の創出	2	0
協議体への参加	2	9
広報誌等の作成・配布	3	1
講演会等の開催	12	7
コーディネーター研修会等への参加	41	23
合計	128	89

4.　福祉まつりの開催

開催日当日、天候も良く２万４千人を超える多くの来場者があり大盛況でした。地区社協をはじめ福祉団体を合わせ 32 団体の出店があり、8 団体は社協イベントに運営支援をいただきました。

令和6年度は「市制 100 周年記念事業」ということもあり、新たに吉本興業や平和マネキンなどの企業とコラボして、様々な企画を開催しましたが、社協イベントとしてもレクリエーション備品を活用してのちびっこチャレンジコーナー、別府大学短期大学部と親と子の劇場によるワークショップ、社協職員によるおでん販売などを実施し、イベントボランティアの方々のご協力もいただき、多くの来場者でにぎわいました。なお、食品販売の団体が 13 時前にはほぼない状況の中で、完売したスペースをどうするかが課題となりました。

（アクション6：福祉まつりの開催）

5.　民間社会福祉施設との協働

市内45 民間社会福祉施設の連絡会の事務局として、各施設との交流・研修等を行い連携の強化に取り組んでいます。感染症対策における施設ごとの参加対応に温度差があり、火の海まつり納涼音頭大会への参加や親睦スポーツ大会、研修会・懇親会においては参加可能な施設で事業を行いました。

また、研修会では黒木記念病院リハビリテーション部長村井和弘氏にご講演いただき、各施設職員から好評でした。なお、民福連発足時から職員間の交流を目的とした主行事として現在に至っていますが、近年の社会福祉法人は地域貢献活動への義務化がある中で、連絡会に対しどのように意識付けしていくかが課題です。

（アクション5：民間社会福祉施設連絡会との協働）

6. レクリエーション、福祉備品貸出事業

地域へ出向いた際の広報活動や社協だよりへの定期的な掲載などにより年間 81 件と、昨年度より 26 件貸出件数が増えています。高齢者疑似体験においては、職員研修として福祉施設や医療機関へ貸出しをしていましたが、本年度は支援学校からも申込や福祉まつり会場内で体験したことから、放課後児童クラブ・学童保育や子ども会からの申し込みも増えました。

また、子育て支援を目的として、令和 7 年 2 月 20 日からチャイルドシートの貸し出しを始め、3件の貸し出しがありました。なお、団体によっては備品貸出の申請先が固定化していることが課題でしたが、社協だよりやホームページなど広報を見たとの問合せも増えており、多くの方の要望に応えられるように備品の充実に努めました。

（アクション 10：地域における交流・拠点の場づくりを進めます）

7. 福祉ちょっと知っとこう出前講座

地域住民への広報として、社協だより、関係団体への声かけを行いました。以前から、申込みいただいている地区社協等関係団体のほかに、地域の老人会や訪問看護ステーションからも申込みをいただきました。昨年発生した能登半島地震で災害に対する意識が高まっていたこともあり、各団体から「災害」をテーマにした講話の希望や、認知症への理解や介護保険の利用方法について、より個人が今後の生活に役立つ内容ついて知りたいとの要望があったため、今後も住民が求める講座を実施に努めます。

（アクション4：福祉ちょっと知っとこう出前講座）

□ 実施状況

団体名	令和6年度	令和5年度
地区社協	8	10
民児協	6	12
老人クラブ	7	6
自治会サロン	0	9
ボランティア	0	0
事業所	1	1
学校	0	3
一般	1	2
計	23	43

□ 実施内容

講座名	令和6年度	令和5年度
認知症	3	11
社協概要	4	13
権利擁護	4	6
介護保険	3	4
ちょいボラ	1	0
健康教室	0	6
災害ボランティア	5	3
その他	6	9
計	26	52

8. まちのなんでも相談室

相談室の開催回数は 93 回でそのうち、相談件数は 18 件でした。一番多かった相談は、「健康について」「近隣問題について」でした。住民がより相談しやすい環境をつくるため、社協内で改善点等について協議しました。なお、相談室の広報不足・相談室の雰囲気づくり・ネット環境がないこと等が課題です。

（アクション1：包括的な相談支援体制を充実させます）

Ⅳ. 生活支援・相談事業（自立相談支援センター事業）

社会的孤立や生活困窮などの複合化した課題に対応し、地域福祉を推進する中核的な組織としての役割や機能を発揮すべく、孤立孤独問題、ひきこもり、8050 問題など制度の狭間にある重層的、複合的な課題へ対応するため自立相談支援機能を強化し、あらゆる相談にワンストップでの対応に取り組むとともに、一元的に対応できる総合相談支援機能を部署内や行政、関係機関、事業者等と連携・強化することにより、市民が安心して生活できる環境づくりを進めました。

（アクション1：包括的な相談支援体制を充実させます）

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）

1. 生活困窮者自立相談支援事業【重点】（別府市受託事業）

相談者の傾向として、就職したことがない、すぐ仕事を辞めてしまい定着できない、親と疎遠、若者ホームレス等若年層からの相談が増加しており、地域若者サポートステーション等の支援機関と連携を図りながら支援を実施しました。

また、若者に限らずホームレスやハウスレスについては、市内にシェルター等がないなどの問題がありますが、居住支援法人等と情報共有を含めた多機関協働による伴走支援に努めました。

さらに「見える化」を図るため、各相談支援員の相談援助記録等統計情報の見直し、チラシの作成やホームページの見直し、相談者専用の相談フォーム、電話やメールで相談しづらさを感じている方のためのLINEアカウントを作成しました。なお、自立支援プランの策定は前年度比約6倍に増加しました。

□相談者一覧（実数）

区分	令和6年度	令和5年度
新規相談者	214	265
住居確保給付金支給者	6	1
合計	220	266

□相談方法（実数）

区分	令和6年度	令和5年度
来所	61	95
電話	129	159
メール	20	-
その他（アウトリーチ）	10	12
合計	220	266

□相談経路※R6より新規計上

区分	令和6年度	令和5年度
本人	141	-
親	6	-
兄弟姉妹	2	-
親類	8	-
知人	3	-
支援者	3	-
多機関	37	-
行政	15	-
その他	5	-
合計	220	-

□相談者年代

区分	令和6年度	令和5年度
10代	3	0
20代	22	14
30代	21	19
40代	24	50
50代	39	46
60代	26	23
70代以上	39	52
不明	46	62
合計	220	266

□支援に関すること

区分	令和6年度	令和5年度
支援調整会議実施回数	10	2
自立支援プラン決定数	23	4

□相談内容

区分	令和6年度	令和5年度
病気・健康・障害	74	95
住まい	42	42
収入・生活費	100	153
家賃やローンの支払い	42	85
税金・公共料金の支払い	13	53
債務	22	29
仕事探し、就職	47	40
仕事上の不安・トラブル	17	22
地域との関係	3	9
家族関係・人間関係	35	29
子育て	7	10
介護	8	10
ひきこもり・不登校	11	17
DV・虐待	2	5
食べるものがない	35	37
その他	118	148
合計	576	784

※相談件数の減少としては、別府市が設置した「ふくしの相談窓口」により分散されたと考えられる

2. 就労準備支援事業【重点】(別府市受託事業)

過去利用実績がないことから、現状の見直しを行い、チラシ作成による広報活動、就労準備支援プログラムにおけるメニューの作成、就労体験先の獲得、就労訓練が行える環境整備等、仕組づくりに努めました。

実績においては、事業利用件数は1件、就労体験先の獲得は 6 か所でした。

(アクション1:包括的な相談支援体制を充実させます)

3. 家計改善支援事業【重点】(別府市受託事業)

家計状況の「見える化」と生活課題の把握を行い、法テラス等への同行支援や関係機関に繋ぐことで、金銭の流れを相談者と整理し、早期の生活再建サポートに努めました。

また、関係機関(地域包括支援センター、相談支援事業所等)とも緊密な連携を図り、円滑な情報共有やネットワーク形成を行いました。

周知・広報の観点から、チラシや対応手順書を作成し、関係機関への説明を通して事業理解の促進を図りました。さらに積極的なアウトリーチ支援を行うことで、相談援助の質の向上と、プラン作成件数の増加に向けた働きかけを実施していきます。

(アクション1:包括的な相談支援体制を充実させます)

4. 多機関協働事業 （別府市受託事業）

行政関係課との連携強化のため、連携作業部会や連携会議に加えて、地域住民から直接相談を受ける実務担当者との関係構築に向けて、定期的に事例検討会等を行い相互理解を深めました。

また、多機関協働事業としての新規及び継続の相談件数は、延べ 240 件（24世帯）あり、制度の狭間である「障がいの疑いがある子を持つ親亡きあと」に該当するケースが多くありました。

連絡調整においては行政関係課では障がい分野、包括的相談支援事業所では介護分野が多く延べ 216 件連携機関との情報共有に努め、さらに 24 世帯のうち終結は 11 世帯（45.8％）で、入院をきっかけとしたケースが多く、未終結ケースでは、介入拒否が終結の困難さに大きく影響していました。今後、重層的支援体制整備をより推進していくためには、地域住民を交えたネットワークの構築や庁内関係課各々による「支援者の支援」という共通認識をさらに深めていき、交流・参加・学びの機会を生み出すために、個人の活動や人をコーディネートし、地域における活動の活性化を図る必要性があります。

（アクション1：包括的な相談支援体制を充実させます）

5. 多世代交流地域拠点事業（みんなの居場所ぷらっと×すぺーす）

孤独・孤立問題等の背景として、複雑・複合化した課題があり、課題解決に向けた一つの手法として、「誰もが安心でき居心地が良い場所、誰もが役割をもてる場所、人と人がつながる場所」＝常設の地域共生型居場所づくりの計画を外部アドバイザーの協力のもと、職員編成によるコアメンバーと開始し、初期構想案を作成しました。

（事業推進の協議等の経過）

〇アドバイザーとの協議
　全 8 回（6/28・7/26・8/23・10/28・11/8・11/27・12/23・1/7）

〇職員への説明　全 1 回（9/27）

〇コアメンバー会議　全 4 回（10/29・11/6・11/26・2/4）

〇初期構想案資料作成後：会長への説明（1/14）・別府市市民福祉部への説明（1/30）・別府市こども部への説明（2/4）・別府市健康推進課への説明（2/10）・別府大学への説明（2/28）・日本文理大学への説明（3/10）・大分大学への説明（3/13）

6. 生活福祉資金貸付事業【重要】（大分県社協受託事業）

本則（通常貸付）については、昨年度より 9 件（10．7％増）多い 93 件の申請があり、81 件が貸付決定しました（不承認 7 件、取り下げ 1 件、保留中 2 件、未決定 2 件）。

決定状況の資金種類で 1 番多い福祉費 42 件中 41 件は生活保護受給者への貸付として日常生活上一時的に必要な経費として決定し、資金全体の半数（50．6％）を占めています。

緊急小口資金は、20 件が貸付決定（不承認 2 件、未決定 2 件）しており、昨年度より

20％減となっています。

また、教育支援資金の申請、決定については昨年とほぼ同数で、そのうち 5 件は入学金などの納期限が迫る中、学校などの教育機関を通じて、申請から決定に至りました。

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）

受付実績

（単位：円）

貸付資金種類		令和6年度				令和5年度	
		申請状況		決定状況		決定状況	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
総合支援資金	生活支援費	1	450,000	1	450,000	0	0
	住宅入居費						
	一時生活再建費						
福祉資金	福祉費	50	8,937,000	42	4,229,000	35	6,040,000
	緊急小口資金	24	2,095,000	20	1,747,000	25	2,009,000
教育支援資金	教育支援費	1	540,000	1	540,000	2	630,000
	就学支度費	11	2,894,000	11	2,894,000	12	3,149,000
	教育＋就学	6	3,687,000	6	3,687,000	4	1,980,000
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	0
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	0
合計		93	18,603,000	81	13,547,000	78	13,808,000

7. コロナ特例貸付に係る総合相談事業【重要】（大分県社協受託事業）

コロナ特例貸付では、令和７年１月から再貸付の返済が開始し、すべてのコロナ特例貸付の償還が対象となる中、フォローアップ支援や見守り支援対象者も含め、生活状況等を聴き取りのうえ非課税免除や猶予などにつなぎました。

緊急小口資金については、償還困難な生活状況にある見守り支援後にも免除となるケースが増えたため、猶予の件数が減少し任意免除が増加しました。また総合支援資金については再貸付の返済が加わったことで、免除、猶予ともに件数が増えています。

（1） 新型コロナ特例貸付 貸付状況

（金額単位：千円）

借受者数	緊急小口資金		総合支援資金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
2,493 人	2,296	455,610	3,877	2,023,000	6,173	2,478,610

（2）償還免除及び猶予状況

	判定免除件数	任意免除	償還猶予件数
緊急小口資金	1080 件	259 件	75 件
総合支援資金	1821 件	422 件	217 件
合計	2901 件	681 件	292 件

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）

8. 福祉資金貸付事業

別府市社協独自財源で実施していましたが、本制度貸付限度額 50,000 円以上の資金については、大分県社協実施の「生活福祉資金貸付事業」にて対応しています。2 件の収入未済額の借受者に対しての業務が数年続いているため、不能欠損処理へ切り替えるなど、次年度の対応の課題が残ります。

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）

・対象者　低所得世帯　　・貸付限度額　50，000円

（単位：円）

区　分	貸付件数	貸付額	調定額	収入済額	不能欠損額	収入未済額	収納率（%）
過年度（H15～H24）	2	100,000	27,000	0	0	27,000	0

※過年度償還完納　0 件　　次年度繰越収入未済　2件

9. 別府っ子応援事業

「子ども食堂に対する支援」は、子ども食堂活動継続支援金として、昨年より 120,000 円多い合計 14 団体（55．5％増）へ支援を行いました。

「福祉教育支援」は、教育委員会より各学校へ周知いただいたことで、実施件数が 23 件で、令和 5 年度に比べ 9 件（64．2％）増加しました。

また、放課後児童クラブでは、子どもたちが楽しめるように防災カードゲームを取り入れながら発達段階に応じた福祉教育を実施しました。

その他、別府っ子応援アクションでは、個人の方から子ども食堂へと高額な寄付を受け、お米が手に入らず支援を希望する子ども食堂（20 団体）へ計画的なお米の配布を行いました。また、各事業の支援内容は以下のとおりです。

（アクション10：地域における交流・拠点の場づくりを進めます）

（アクション11：誰もがいきいきと暮らせる環境を整備します）

事業名	事業内容	令和6年度実績	令和5年度実績
活動支援	小・中学生を対象に経済的な事情でスポーツ、文化、芸術活動などの子ども達の意欲やチャンスを妨げないために、活動経費の一部を支援します	小学生 1 件 （17,600 円）	小学生 4 件 （ 80,000 円）
		中学生 1件 （30,000 円）	中学生5件 （150,000 円）
奨学金支援	高等学校へ進学する学生を対象に、経済的な事情により修学意欲を妨げないために、奨学金として支援します（1人につき30千円/（年）支給）	22 名（新規） 40 名（進級） 総額 1,860 千円	21 名（新規） 41 名（進級） 総額 1，860千円
子ども食堂支援	子ども食堂や地域食堂など、様々な事情による子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域ぐるみで子どもを大事にする取り組みと経費の一部を支援します	【継続支援】30 千円 7 件 210,000 円 【活動支援】20 千円 7 件 140,000 円	【継続支援】30 千円 5 件150，000円 【活動支援】20 千円 4 件 80,000 円

福祉教育	福祉フォーラム in 別杵速見地区実行委員会と連携し、講師を派遣していただきながら、市内の各学校等で車イス体験や盲導犬の理解、差別について学ぶ、パラスポーツ体験など豊富なメニューを実施します	高校：1 回、中学校：3 回、小学校：16 回、幼稚園：1 回、放課後デイ：1 回、放課後児童クラブ 1 回	高校：1 回、中学校 1 回、小学校 10 回、幼稚園 1 回、放課後デイ 1 回
生活環境支援	市営住宅に入居する世帯（18 歳未満の子どもがいる世帯及び妊婦のいる世帯）のうち、市補助金を申請され、なおかつ本会支援給付金に同意された世帯。申請者実費負担分（補助対象経費額の 1/5）上限 50,000 円以内	支援件数 6 件 社協支援金 計 235,100 円	支援件数 11 件 社協支援金 計 443,050 円
別府っ子応援アクション	児童生徒に福祉教育を通じて、豊かな心を誰もが安心して暮らせる社会を創造する力を育むとともにボランティア活動へのきっかけづくりへ繋げます	今年度寄付実績 1，029，000円（3件）	昨年度寄付実績 27,100 円（3件）

10.ちょいボラ（訪問型有償ボランティア）事業

令和 6 年度は、昨年度より 17 名（15．7％）の新規依頼者が増えた中、登録ボランティアの方々とマッチングすることができました。

さらに、ボランティアの中には、継続して同じ依頼者を支援している方も多く、お互いの関係性を保って助け合うことができています。活動実施回数は、延べ 644 回（18．4％増）と昨年度を上回る実績となりました。

一方で、家庭事情等により、5 名の方がボランティアを辞退されましたが、養成講座は 12 回実施し、参加者 17 名中、新規登録者は 10 名あり、昨年より 5 名多い72名が登録いただいています。

また、限定的な活動を希望するボランティアコーディネートは難しく、マッチングを円滑にできないことで、頻繁に活動される方とそうでない方が生じ、活動に繋がらないボランティアのモチベーションが下がる傾向が課題としてあります。

（アクション2：多様化する地域生活課題に対する体制を整備します）

（アクション7：きめ細やかな情報提供を行います）

□相談件数と延べ実施回数

	相談内容	草むしり	庭掃除	電球交換	ゴミ出し	家具移動	修繕作業	掃除	お話し相手	買物	見守り	声掛け	付き添い	事業の問合せ	その他	合計
令和6年	相談件数	15	1	6	4	5	0	29	4	6	0	1	2	0	20	93
	実施回数	51	16	1	133	1	0	370	50	2	0	0	0	0	20	644
令和5年	相談件数	10	2	1	5	3	0	40	3	12	0	1	0	1	18	96
	実施回数	26	1	0	70	1	0	312	67	28	0	0	0	0	39	544

□ちょいボラの養成講座実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
おひさま	受講者	中止	1	中止	休館	中止	休館	休館	中止	中止	中止	中止	1	2
	登録者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
社協	受講者	2	中止	1	中止	2	中止	1	1	1	1	中止	4	13
	登録者	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	7
あすなろ館	受講者	1	1	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	2
	登録者	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

開催回数	12
受講人数	17
登録者	10

□登録依頼者数と登録ボランティア数

人数	令和6年度	令和5年度
登録依頼者	125	108
ボランティア	72	67

11.地域貢献活動連携事業

(1)愛の訪問事業

今年度は多様な生活形態の方も利用できるようになり、7名の新規登録があり 45 名の登録者数になりましたが、年度末には配布継続の意向確認の際、諸事情により 7 名の方が廃止となりました。また、延べ配布者数は 438 人で、昨年度より 24 人増加、配布本数も 4,835 本の 314 本増加となりました。また、安心した生活を送るために必要とされる事業となっており、今後も広報啓発について民生委員・児童委員、各地区社協、地域包括支援センター等へ積極的な周知を図っていきます。

（アクション5：地域福祉に携わる団体・関係機関との連携を図ります）

（アクション8：地域での見守り・支援体制の充実・強化）

年度	配布者数	本数	金額
令和6年度	438 人	4,835 本	250,645円
令和5年度	414 人	4,521 本	194,805 円

(2)かけ橋パートナー店事業(身近な地域の商店や事業所などでの相談所)

医薬品小売協同組合の解散により、組合薬局がかけはしパートナー店へ加入し、計 42 店舗となり、前年度と比べ、32 店舗(内、薬局 19 店舗)増加しました(320%増)。

7 月と 2 月に「かけはしパートナー店意見交換会」を実施し、近年発生している災害について(令和 6 年度台風 10 号)社協の取組ついてお伝えし、防災カードゲームなまずの学校で、防災に対する知見を深め、かけはしパートナー店事業への理解促進と非常時にも連携ができる体制づくり及び地域づくりを一体的に推進することができました。

なお、個人経営の店舗の加入が多いため、意見交換会への参加率が低いことが課題となっているため、今後は従業員数の多い企業の加入を促進していきます。

(アクション1:包括的な相談支援体制を充実させます)

(アクション 10:地域における交流・拠点の場づくりを進めます)

(3)食料支援事業【重点】(温もりセット定期便、フードドライブ、フードパントリー等)

今年度は一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州の「ひとり親家庭等の子どもの食事支援事業助成金」2,236,000円の助成が採択され、物価高騰や米不足の問題もありましたが、温もりセット定期便を 6 月から偶数月に年 5 回延べ 600 世帯へ、また、12月には困窮者世帯向けライスパントリープラス(120 世帯)と、ひとり親家庭対象ライスパントリープラス(100 世帯)を実施し、計 220 世帯へ、お米や生活用品を無料配布しました。

さらに、個人の方から子ども食堂へと高額な寄付を受け、お米が手に入らず支援を希望する子ども食堂(20 団体)へ計画的なお米の配布を行いました。

その他、別府フードバンク“おふくわけ”や市内企業等からも定期的な食料支援を受けています。これらの食品等については、主に子ども食堂(36 団体)、児童養護施設(3 施設)、母子福祉施設(2 施設)、“温もりセット定期便”や生活困窮世帯などに、その都度生活用品を含め食料提供を行いましました。

(アクション 10:地域における交流・拠点の場づくりを進めます)

【食料支援配布先状況】

配布先	令和6年度	令和5年度
温もりセット定期便	600 世帯	542 世帯
ライスパントリー(困窮)	120 世帯	120 世帯
ライスパントリー(ひとり親)	100 世帯	
子ども食堂等	36団体	16団体
児童養護施設	3 施設	3施設
母子福祉施設	2施設	2施設

Ⅴ． 成年後見支援センター事業

認知症や知的・精神障がいのある方等が地域で安心して暮らせるように、権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関として成年後見制度の普及啓発に取り組みました。具体的には、総合相談機能を充実させるとともに市民後見人の養成や後見人等の受任（法人後見事業）を積極的に行いました。

また、「べっぷ終活あんしんサポート事業」では、身寄りのない高齢者の方々に対し、月 1 回の訪問や電話連絡を実施することで安否確認を行い体調の変化や生活上の把握に努め「何かあったらいつでも連絡できる」という安心感につなげることができました。

1．権利擁護支援体制促進事業【重点】（別府市受託事業）

権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関として、成年後見制度を必要とする住民の受任者調整や地域後見活動を担う人材の育成に努めました。

また、令和 6 年度は別府市初の市民後見人が誕生したことにより、本会が保佐監督人を受任したことから、市民後見人が安心して後見活動が行えるよう助言・指導を行ないました。

なお、月 1 回の終活相談会や総合相談窓口において身寄りのない高齢者等の相談に応じ、べっぷ終活あんしんサポート事業の契約を行なったほか、親亡き後等問題を抱えた当事者や関係者向けの出前講座を実施し、制度の普及啓発に取り組みました。

（アクション3：一人ひとりの人権を認め合いあらゆる人の人権を擁護します）
（アクション8：地域での見守り・支援体制の充実・強化）
（アクション9：災害に備えた円滑な支援活動の推進）

(1)別府市成年後見支援センターの設置・運営

①運営委員会

（弁護士/司法書士/社会福祉士/医療福祉関係者/民生委員/行政等18名）

・第 1 回　令和 7 年 3 月 28 日（金）　10：00～　社会福祉会館

②受任調整委員会（弁護士/司法書士/社会福祉士/医療福祉関係者/行政等 11 名）

受任調整　審議結果	令和 6 年度（件）	令和 5 年度（件）
弁護士	6	1
司法書士	4	0
社会福祉士	4	1
社会福祉協議会	12	9
市民後見人	0	1
その他	0	1
保留	4	6
取り下げ	0	5
計	30	24

(2)総合相談(一般・専門相談・終活相談)　　(単位:件)

年度	延べ相談件数	書類作成支援	同行支援	定例終活相談件数
R6	273	8	31	27
R5	242	16	17	26

(3)市民後見セミナーの開催

・日時…令和6年9月14日(土)13:00～15:30
・内容…想いをつなぐ相続対策と遺言書の書き方「身寄りがない時代の終活を考える」
・講師…大分綜合会計事務所代表　税理士　蔵前達郎
　　木本直美行政書士事務所代表　行政書士　木本直美
・参加人数:104 名

(4)人材育成・市民後見人の活動支援

①第 5 回別府市市民後見人養成講座(基礎課程)の開催

・座学研修　全 9 回
6/29(土)、7/13(土)、7/27(土)、8/10(土)、8/24(土)、9/7(土)、9/21(土)、10/12(土)、10/26(土)
・現場研修　10/16(水)
・修了者数 19 名
・市民後見人候補者台帳登録者　16名

②令和 6 年度別府市市民後見人養成講座(専門課程)の開催

・座学研修　全 2 回　9/14(土)、10/19(土)
・視察研修(北九州成年後見センター「みると」、市民後見センター「らいと」)　11/20(水)

③市民後見人の誕生

監督人選任型市民後見人が、令和 6 年 7 月 26 日選任されました。

【専門課程対象者数(市民後見人候補者台帳登録者)】　　(単位:件)

第 1 回 (R 元年度)	第 2 回 (R2年度)	第 3 回 (R3 年度)	第 4 回 (R5年度)	第 5 回 (R6 年度)	合計
25	17	13	22	16	93

④べっぷ市民後見人の会「エール」設立(設立日:令和 6 年 8 月 22 日)

市民後見人養成講座修了生等の有志により、権利擁護支援や成年後見制度の普及啓発活動等を通じ、共に支え合う地域共生社会づくりに取り組んでいくことを目的に設立されました

・会員数 35名(R7.3.31現在)

(5)法人後見事業

受任者数　29名(累計40名)

【類型別受任状況】　（単位:件）

年度	補助	保佐	後見	合計
R6	2	8	19	29
R5	2	9	12	23

【累計受任件数】　（単位:件）

累計受任件数 （事業開始 R3.4 月～）	終結件数	引継件数	R6 年度末現在 受任件数
40	10	1	29

(6)べっぷ終活あんしんサポート事業

契約者数　13名

【べっぷ終活あんしんサポート事業　年度別契約状況】　（単位:件）

年度	年度当初 契約件数	新規契約 件数	解約件数	年度末 契約件数
R6	12	2	1	13
R5	5	7	0	12

2.日常生活自立支援事業(あんしんサポート)【重点】(大分県社協受託事業)

認知症や知的障害・精神障害によって判断能力に不安を抱える方に対し、福祉サービス利用援助をはじめ金銭管理に関する手続き等の援助を行うことで、当事者が安心できる地域生活の実現を図りました。

また、年々本事業の需要が高まっていることに対し、衣食住の確保が困難な在宅の方を優先的に受け入れたり、利用者の支援体制の見直しを図ったりすることで持続可能な制度を目指しています。

今後は、身寄りのない認知症高齢者の増加に対応するため、成年後見制度と連携を図りながら、一層の権利擁護支援の拡充に努めていきます。

（アクション3：一人ひとりの人権を認め合いあらゆる人の人権を擁護します）

（アクション7：きめ細やかな情報提供を行います）

□初回相談受付の状況　（単位:件）

年度	認知症 高齢者等	知的 障害者等	精神 障害者等	その他	合計
R6	40	8	11	36	95
R5	43	9	17	18	87

□契約締結の状況　（単位：件）

年度	年度当初 契約件数	新規契約件数	解約件数	年度末 契約件数
R6	110	14	23	101
R5	106	29	25	110

□日常生活自立支援事業利用状況 （延べ人数・件数）

区分	令和 6 年度	令和 5 年度
利用者数（人）	1, 259	1, 307
利用回数（回）	2, 547	2, 738
預かり件数（件）	1, 283	1, 307

□世帯別利用状況 （延べ人数・件数）

年度	一般世帯			生活保護世帯			合計		
	人数（人）	回数（回）	預件数（件）	人数（人）	回数（回）	預件数（件）	人数（人）	回数（回）	預件数（件）
R6	598	926	611	661	1,621	672	1,259	2,547	1,283
R5	534	974	534	773	1,764	773	1,307	2,738	1,307

※人数は毎月末時点の契約者を集計したもの

Ⅵ. 認知症総合支援事業

1. 認知症地域支援・ケア向上推進事業【重点】（別府市受託事業）

認知症サポーター養成講座において、通常の養成講座のほかに VR を使った認知症講座を小学校と地域で 1 回ずつ開催するとともに、認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業と連携したチームオレンジ結成に向けた取り組みを行いました。

また、今年度もアルツハイマーデー街頭啓発活動を、JR 別府駅、ゆめタウン別府の 2 か所で実施し、20 名の参加者とアルツハイマーのチラシ等 850 部の配布をしました。

その他、アルツハイマー月間に合わせて開催した「認知症市民講演会」は認知症ピアサポーターの先駆者、丹野智文氏を招き、当事者だからこそ話せることを来場者と質疑形式で行いました。

一方で、まだまだ認知症に対しての理解が得られにくいことが課題なため、啓発活動がこれからも必要と考えます。

（アクション6：地域を担い、支える人材を育成します）
（アクション9：災害に備えた円滑な支援活動の推進）

◆事業実績　（単位：件・回数）

事業区分	事業内容は実施先	R6 年度	R5 年度
1　地域活動	オレンジカフェ別府（サロン）	3	2
	認知症市民講演会	1	1
	認知症高齢者一人歩き声掛け模擬訓練	1	0
	別府市地域ケア会議	10	12
2　連絡会	キャラバンメイト連絡会	0	0
3　認知症サポーター養成講座（定期開催）	（第3・第4火曜日、3会場）	16	13
	養成講座修了者数（単位：人）	79	61
4　認知症サポーター養成講座（団体等）	企業	0	2
	地域	1	3
	小中学校	1	0
	高校・大学	0	2
	小計	2	7
	養成講座修了者数（単位：人）	36	188
5　事業説明	地域	0	0
	事業所（多職種）	1	1
6　出前講座	地域	4	4
	学校	1	1
	その他	0	1
7　支援	個別訪問等	1	6
8　相談	電話（来館を含む）	5	8

2.　認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業【重点】（別府市受託事業）

令和 6 年 10 月より市より受託して事業を開始しました。この事業の目的である「チームオレンジ」を結成するための仕組みづくり~~準備~~に取り組みました。

まずは市内にあるカフェやサロンの調査を行うため、多く存在する集いの場へ出向き、認知症の人や家族の受け入れ態勢を確認しました。

また、認知症サポーターステップアップ講座を開催し、チームオレンジ結成に向けた準備をしました。今後はミーティングやフォローアップを重ね、認知症のご本人の声を起点に、活動を推進します。

【認知症サポーターステップアップ講座】

〇ステップアップ講座Ⅰ

・日時…R7年3月2日　・参加者…25 名　・会場…社会福祉会館

〇ステップアップ講座Ⅱ・Ⅲ

・日時…R7年3月4日　・参加者…21 名　・会場…社会福祉会館

※講座終了後、修了式を開催

3. 認知症初期集中支援事業（別府市受託事業）

在宅生活を希望する認知機能低下のみられる本人やその家族に対し、介護や医療に繋ぐ活動を支援しました。

特に認知症の介護に疲弊する家族に対し、思いを理解しながら適切な日常生活に関するサービスを提案することで介護負担軽減を図りました。

新規相談件数は 35 件（45.8％増）の実績となり、相談経路としては、家族からの相談が 19 件と多く、全体の54．3％を占めています。

今後は、困難事例に対応できる体制作りとして地域ネットワークの構築、定期的な事例検討会を通じて専門性の向上を図ります。

また、認知症の早期診断（MCI：軽度認知障害）につながるよう認知症地域支援推進員との連携を強化し、地域住民への認知症に関する継続的な広報を行います。

なお、認知症への理解不足による受診拒否や、医療アクセス困難、本人と家族の関係性の悪化、家族の介護負担増による疲弊が要因で、困難化してから相談になっていることが課題です。

（アクション3：一人ひとりの人権を認め合いあらゆる人の人権を擁護します）

【新規相談件数】 （単位：件）

	R6	R5
新規相談	35	24
困難事例	6	7

【相談経路】 （単位：件）

	R6	R5
本人	2	1
家族	19	14
近隣	2	0
民生委員	1	1
医療機関	3	1
包括	6	3
その他	2	4
合計	35	24

【相談内容（重複計上あり）】 （単位：件）

相談内容	件数
BPSD	3
物忘れ	8
物取られ妄想	5
医療未受診	6
家族支援	20
日常生活に支障	11
1人歩き	0
その他	0
合計	53

※BPSD・・・認知症の患者に現れる精神症状や行動上の問題

Ⅶ. 居宅介護支援事業

1．居宅介護支援事業【重点】

当事業所では、本人・家族・事業所等と連携を図り、利用者の状態を的確に把握し、かつ効果的なサービス提供に努めました。

また、ケースを通じて地域課題やニーズを発掘する視点を養い、地域における社会資源の コーディネート実施しました。

さらに、BCP（災害時業務継続計画）策定に関する研修会への参加や情報収集を行う

とともに、事業所内研修を実施し、緊急時における連携の重要性を再認識しました。今後も定期的な机上訓練・実施訓練を通じ BCP の実効性を高めていきます。

また、令和６年度６月２７日の運営指導において、運営規定に関する助言と、記録の不備等５件による介護給付費の減算が発生しました。今回の減算を真摯に受止め、記録管理の徹底と再発防止に努め、より質の高い居宅介護支援を提供できるよう努めます。　　（アクション3：一人ひとりの人権を認め合いあらゆる人の人権を擁護します）

（アクション9：災害に備えた円滑な支援活動の推進）

◆サービス計画立案件数

（単位：件）

区分	認定申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	中～重度者割合
令和6年度	0	0	14	160	187	80	81	103	625	42.2%
令和5年度	1	5	27	203	183	87	100	65	671	37.6%

◆入退院時連携加算等　（単位：件）

区分	初回加算	入院時連携加算	退院時連携加算	合計
令和6年度	9	6	1	16
令和5年度	5	17	9	31

《附属明細書》

上記の事業報告に関して、社会福祉法施行規則第 2 条の 25 第 3 項に規定されている附属明細書については、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。

【社会福祉法施行規則第 2 条の 25 第 3 項抜粋】

（事業報告）

社会福祉法第 2 条の 25　法第 45 条の 27 第 2 項の規定による事業報告及びその附属明細書の作成については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合はこの限りではない。

２　（略）

３　事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。